

## スタッドレス

2024. 11. 18

9月のことだった。暦の上では、秋に向かっているはずなのに暑い。とても長袖にしようとは思わない。ところが、さすがに気温が下がってきたときがあった。ちょうど、アイスコーヒーからホット珈琲に切り換えようかなと思っていた頃である。そのタイミングを待っていたかのように、コンビニでは、あんまんや肉まん、おでんなどが登場した。テレビでは、スタッドレスタイヤのコーナーが流れ始める。毎年、見事な切り換えである。

まだまだ季節は半袖なのに、雪の上をスタッドレスタイヤを装着した車が走る。何とも、アンバランスにも思えるが、こうでもしないと、季節が秋へと進まない、夏がいつまでも終わらないような感じである。

いくら暑いとはいえ、10月も中旬を過ぎると、ようやく暑さも落ち着いてくる。ここ数年そうなのだが、Tシャツから一気にジャンパーにかわる。朝、家を出て、着る物を間違えたという日も出てくる。この頃になると、少しは冬の気配がしてくる。いわゆる“冬のおい”である。風が違う。

今年も、そろそろタイヤ交換の時期である。私の車は、本日が、夏タイヤからスタッドレスタイヤへと替わる日となる。毎年、タイヤ交換の時期をいつにするかと考える。早めにやっておいた方がいいのは間違い。だが、なるべく遅らせようという考えがよぎる。今、乗っている車は、雪に弱い。そのため、遅くとも11月下旬までには交換するようにしている。

スタッドレスタイヤは、何故にスタッドレスと言うのか。スタッドがレス、スタッドがないということである。では、スタッドとは何か。スパイクのことである。もう昔のことだが、スパイクタイヤというものがあった。若い方はわからないだろう。車のタイヤにスパイクが付いていたのである。これならば、雪道にも強そうである。だが、雪がなければ、ひたすらアスファルトを削るようになる。粉塵が舞う。

若い頃、毎年のように、岩手の安比高原スキー場に行っていた。東北道には、雪がない。スパイクタイヤでは、高速で走りたくない。音もうるさい。そこで、岩手県に入るまでは、ノーマルタイヤで行き、サービスエリアでタイヤを交換していた。帰りも、また履き替えていた。若かった。エネルギーがあった。スパイクタイヤをなるべく使いたくなかったのだろう。前輪はスパイク、後輪をノーマルタイヤにしていたときもある。おかげで、天元台スキー場に向かう急な坂道を上がれずに、一度、坂の下まで下り、勢いをつけて坂を登り切ったこともあった。

今、思うと、スパイクタイヤはすごいタイヤだった。とはいえ、スタッドレスタイヤができてよかった。音は静かになったが、スパイクはないのだから安全性は低い。したがって、慎重に冬道を走るようになる。信夫の里に雪が積もるのは、いつ頃だろうか。今年も、スタッドレスタイヤをあてにすることなく運転したいと思う。